

令和七年

# 松香 Komunikado

令和七年一月度 新年祭 ぐあいさつ

分苑長 山本 健

Felican novan jaron

明けましておめでとうございます。本年も相変わりにしてよろしくお願い致します。

只今は、乙巳年の新年祭を、すがすがしく齋行させて頂き、誠に有難く思います。ご参拝並びにご奉仕くださいました皆様方、又オンライン参拝並びにお玉串をお送りくださりました方々に、御礼申し上げます。

教主様の新年ぐあいさつの中に開祖様の杵島ごもりで、日露戦争の戦勝祈願、聖師様の吉岡発言など、戦争に関する話が多く出ておりました。最後のところで、

「本年十月十二日には、人類愛善会創立百周年を記念して、綾機平におきまして『綾の聖地エルサレム大本歌祭』が執り行われます。綾の聖地から皆様の祈りを込めた献

一月十二日発行

第三百二十二号

大本松香分苑

豊橋市南牛川二・三・二〇

電話 ファックス

〇五三二一・六三二・二一七三

発行責任者 山本 健

詠歌の言霊が、天地四方に響き渡り、その波が中東エルサレムの歌祭りへと繋がり、世界が平和に導かれますようにと心から念願いたしております。」  
更に続いて

「令和五六七の最終年の、そして世界が大きく変わりゆくはじまりの年の年初に当たり、世界の恒久平和実現、みろくの世へと向かうご御神業がいよいよ進展していくことを祈念し、遠い神代からの深いご神縁のもと、大本のお道に集わせていただいている私たちは、この時代に共に生まれあわせた幸せを胸に、今なすべきことを常に希求しつつ、日々のご用にそれぞれが、精いっぱい、努めさせていただきましよう。」  
とご教示くださっております。

『綾の聖地エルサレム大本歌祭』の重要性と我々信徒一人一人が日々のご用に精いっぱい、努める事の大切さも強く仰っておられます。全体として非常に厳しい内容と拝察しました。

一月三日から五日まで、大道場修行の後半を受講しました。十八名の方が終了しました。今回は半分だけだったので、やはり初日から五日間受講に比べて、あつという間に終わってしまった気がしました。それでも新年早々から、高熊山、万祥殿、綾部長生殿、奥津城と参拝出来て、年の始まりに力を頂けたように思いました。又正月で普段に比べ受講者も多く、人との出会いもあり、新たに友人ができたこともお蔭の一つであります。今回の修行での感想は、「初心忘るべからず」でした。初めて受講した時の感動を忘れずに、お蔭に慣れっこになつてしまったことを反省する機会になりました。

受講の前日、富田たみ子様のお見舞いに訪問させていただきました。たみ様様が自宅に帰りたいう願いを叶うため、育代様が医師にかけ合い、無事に自宅に帰ることができました。のどを手術されたのか話しくそうでしたが、頭ははっきりされていて、「遠方から申し訳ない」といったことを仰っておられました。直接ご本人の前でお取次ぎさせていただき、ありがたかったです。

又年末には、大栗淑子様を訪問させていただきましたが、元気を取り戻されて、食事がとれるようになっておりました。同様にお取次ぎをさせていただきました。百歳を迎えられたお二人が、元気を取り戻されたことは大変うれしいことでした。

最後になりますが、松香分苑の皆が手を取り合って、助け合い、この激動の令和五六年の最終年を乗り切ります。

Koran dankon